



幼保小架け橋だより



令和8年2月発行 Vol.3
三木市教育委員会
教育・保育課
小中一貫教育推進室

幼保小の円滑な接続に係る教育実践研修

【合同研修会】 令和8年1月13日(火)16時～17時
オンデマンド配信:1月14日(水)～1月30日(金)

「幼・保・小をつなぐ教師の役割」～実践事例に学ぶマインドセット～ と題して、彦根市立城南小学校 田鍋 敏寿 教諭にお話いただき、教育実践研修会を行いました。検討委員の先生方をはじめ、校園長先生方やたくさんの就学前・小学校の先生方にご参加・ご視聴いただきました。マインドセットを基にした授業デザインの事例を聞かせていただくなかで、いま目の前にいる子どもたちに本当に必要なことは何なのかを考える機会となりました。

小学校の先生 感想



子どもはもっと子どものありのままであっていいという言葉にはっとしました。教師側が焦らずに、子どもらしさを大切に育てていきたいと思います。

小学校1年生では、きまりやルールなどをしっかりと教えないといけないというふうに思っていたのですが、そうではなく、目の前の子どもを大切に授業構成などを考えて行く必要があるということに気づきました。また、子どもたちが夢中になるような、環境や授業展開をしっかりと考えていかないといけないということを改めて感じました。

入学後は、新しい環境に早く順応させることに意識が向きがちですが、園で大切に育まれてきたことを大事にしていきたいと思いました。



今日の研修で学んだことを学校全体に広げ、一年担任だけでなく、教職員みんなで架け橋期を意識できる三木市にしたいです。

園での、保育が学びの土台となっているということを改めて強く感じました。そのことを、しっかり意識し、なぜ、その遊びをしているのか？ 育ちに必要な環境を、意図をもって整えたいと思いました。とても勉強になりました。

園所の先生 感想

子どもの「できない」に目が行きがちになっているところがありました。今一度、子どもが“夢中”になる瞬間をたくさん作ることができるよう環境を整え、子どもたち同士で作り上げる遊びを後押しする保育を大切にしていきたいと思いました。



こうしなければならない、という固定概念に囚われず、目の前のこどもを見て保育を進めていきたい。



子どもをど真ん中に置いたカリキュラムとして架け橋期をデザインするという考え方がとても素晴らしく実践していきたいと思いました。

第4回 検討委員会

【第4回】令和8年1月21日(水)15時～16時30分

3回にわたる検討委員会での協議をとおして、就学前施設と小学校、それぞれの先生方が**共通して大切にしていること**が確認されるとともに、両者の**価値観の違い**も“見える化”されてきました。第4回検討委員会では、これまでの協議のなかで見える化された、1年生スタート期に大切にしたい幼保小の共通テーマ「**新しい環境の中で、安心して挑戦できる子どもを育てる**」を中心軸に、「1年生スタート期の協議シート」を用いてグループワークを行いました。

グループワーク 協議の観点

入学後、子どもが感じる困り感やつまずきは、どこにある？

実際にどんな声のかけ方が安心につながる？



安心して“やってみよう！”に挑戦し、学校生活をスタートするためには、どんな環境が必要？



具体的な教師・保育者の支援は？

グループワーク 意見交流

○初めての場所、友だち、先生、…新しいことばかりで不安が大きい。

➡園で親しんできた集団遊びや手遊び、ゲーム遊びを子どもたちに委ねてやってみよう。折り紙やぬりえ、制作遊び…、好きなことを自由にできるコーナーも作ってみよう。

○45分間椅子に座っていることは難しい。

➡床に座って話し合ってみよう。床に座って読み聞かせを聞く方がリラックスできそう。

➡体を動かしながら学習できる工夫をしてみよう。

➡15分単位のモジュール学習で進めよう。

○トイレの雰囲気や和式トイレの使用に不安を感じる子どもが多い。

➡入学までに園の先生と、公共施設や小学校に行って使ってみよう。

➡キャラクターの掲示や装飾で明るい雰囲気にしよう。

➡体験入学で保護者の方と一緒に使ってもらおう。

○困ったことを言い出せないでいる子どもをどう支える？

➡いろいろな人と関わる力や、困った時には誰かに伝える力をより意識して保育をしよう。

➡「待ってるね。」と声をかけ、落ち着いてから言えるようにしよう。

➡先生に言えない時は、友だちに言えるようにしてみよう。

○安心して過ごすために

➡「ここまで頑張れたね!」「すごいね!」の声かけで、自信をつけよう。

➡間違えても、忘れ物しても、失敗しても、丸ごと受け止め、フォローし合えるクラスづくりをしよう。

➡子どもたちは、「やりたい!」の気持ちをもって入学してきたことを忘れないでいよう。

◆鈴木委員長より助言

○園所でも小学校でも、子どもはみんな頑張っている。失敗してもできないことがあっても、次にどうするかをみんなで考えられる学級経営をしていくことが大切。

○言われたことをするのは、子どものやる気が減ってしまうが、言い方の工夫で子どものやる気はアップする。やる気にさせることが鉄則です。

○園所では、「小学校でも、困った時は先生に言ったら大丈夫だよ」ということを子どもたちに伝えておく。小学校では、特に入学当初は自由時間をたくさん設け、床に座って過ごしたり、ほっとするコーナーを作ったりしておくことが子どもの安心につながる。

○子どもは、**長い目で見ると必ずできる**ということを先生みんなで共有しましょう。



令和7年度は、相互参観や協議シートをもとに、就学前教育と小学校教育をつなぐための共通理解に向けた土台作りを行ってきました。次年度は、各学校園所において、協議内容を実践に生かしていただきながら、実践例をもとにブラッシュアップし、モデルとなる「三木市幼保小の架け橋期のカリキュラム」の完成をめざします。